

水防演習やハザードマップの活用で洪水に備える



平成 25 年に利根川河川敷で行った水防演習

三方を河川に囲まれた市では、万一の堤防の決壊などに備えて、毎年、消防団を中心とした水防演習を行うとともに、200年に一度の確率で起こる大雨で堤防が決壊した場合に、浸水する可能性のある地域を記した「洪水ハザードマップ」を作成し各家庭に配布しています。また、市内の浸水被害を未然に防ぐために排水路の拡張整備などにも取り組んでいます。

堤防決壊に備え 毎年水防演習を実施

野田市は、利根川・江戸川・利根運河に三方を囲まれています。

3つの河川は、国より200年に一度起こる可能性のある大雨に耐えられるように堤防などの整備が進められた結果、昭和22年9月のカスリーン台風によって、埼玉県大利根町付近で利根川の堤防が決壊したのを最後に、洪水被害は発生していません。

しかしながら、毎年5月ごろ、危機管理意識の高揚のため、市消防と市内の消防団によって堤防の越水、漏水、決壊などを想定した水防演習

を実施しています。土嚢^{どろ}の作り方や積み方をはじめ、堤防の決壊を防ぐための水防工法を習得し、実践に役立つよう訓練しています。

実際に台風や集中豪雨が発生した場合、市では状況に応じて必要な職員配置をとるとともに、地域の消防団も、消防署からの指令により出動、各地域の危険箇所を分担してパトロールし、現場の状況報告や水防活動などにあたるなど、水防体制を整え、緊急時に備えています。

各家庭で洪水ハザード マップの確認を

市では、200年に一度の確率で起こ